



内田樹『なぜ私たちは労働するのか』を通じて考える
キャリア観：
進路多様校での『国語総合』における一年生の教育
実践から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-09-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長澤, 元子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00010747

内田樹『なぜ私たちは労働するのか』を通じて考えるキャリア観 ～進路多様校での『国語総合』における一年生の教育実践から～

長澤 元子

キーワード キアリア観 主題単元 論文 参加型授業 ICT

1 新学習指導要領のキャリア教育における記述と本実践の関連について

この授業実践は、2021年度の勤務校における国語総合の採択教科書、三省堂『新編 国語総合』の、内田樹『私たちはなぜ労働するのか』という教科書教材を基調教材とし、他の資料教材を参照し、クラス内で対話しながら、学習を終える時点での自分自身のキャリア観について自分の意見をまとめて論文にした実践である。

勤務校は1学年6クラスだが、そのうち、筆者が担当する3クラスについて以下の実践を行った。在籍している生徒は、国公立大学進学希望者から就職希望者まで、幅広い進路希望を持った生徒たちである。

平成30年度の『高等学校学習指導要領』総則編3 キャリア教育の充実(第1章総則第5款1(3))(注1)では、「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。」とある。また、「学校教育においては、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、これまで学校の教育活動全体で行うとされてきた意図が十分に理解されず、指導場が曖昧にされてしまい、また、狭義の意味での「進路指導」と混同され、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないかと、といった指摘もある。こうした指摘等を踏まえて、キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動のホームルーム活動を要しながら、総合的な探究の時間や学校行事、公民科に新設された科目「公共」をはじめとする各教科・科目における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。」という位置付けが示され、「自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。」とされているものの、各教科においてその機会を創出することはなかなかできていない現状がある。そのため、各教科においても、可能な範囲でキャリア観を育成、醸成する単元的设计を行うことが望ましいと考えられる。

2 勤務校におけるキャリア観についての整理と授業における仮説

勤務校の実態として、進学する時点で職業があらかじめ決定した状態で進路を考えるという傾向が強いという特有の問題がある。実際、勤務校の進路指導部がまとめた2021年度の進路希望調査は次のとおりとなっている(図1)。

進路希望調査からも分かるとおり、高校を卒業して大学入学後に進路や職業傾向が見えやすい学部や学科を目指す生徒が多い。例えば、その代表格が教員、栄養士、保育士、公務員、医療・看護系等である。経済学部は銀行といった金融系等の卒業時の出口がイメージしやすく、進学する生徒も多い。その一方で、法学部等の一般的に卒業後のイメージがつきにくい学問分野を志望する生徒は、少ない現状がある。

これは、専門学校、短大、大学に進学後、函館に帰ってくる前提で就職を考えることに起因すると考えられ

る。とくに大卒後に函館に帰ってくる就職先について保護者がイメージしづらいため、比較的就職先が安定的に確保されているように見える分野への進学を保護者が勧奨していることも、関連がある。保護者の勧奨は子どもの進路選択に大きく影響を与えるため、生徒たちは医療系等の実学を身につけようとする進路選択も多い。

勤務校の進路指導部では、大学の出張授業等で「職業を決めないで進学して良い」という趣旨の全体講話を依頼し、多様な進路を主体的に選ぶことができるよう支援しているが、生徒の進路希望が大きく変化するまでには至っていない。

また、キャリア観の育成はおおむね、探究活動、進路講話、ある

いは担任との面談という3つになっている。現任校では実際には LHR の時間や進路選択の際などにも積極的にキャリア観についての話をしているが、授業者からの講義形式になりがちである。そのために、筆者は当時担当していた1年次生の「国語総合」の授業を通じて、生徒たちが国語総合の授業を通じて主体的にキャリア観について考え、他者と意見や調べた情報を交流することで互いが考えを深め合えるような単元設計を試みた。生徒たちが単元終了後に多様で豊かなキャリア観が醸成できるような素地を築き、多様な進路をじっくりと選ぶ契機となるのではないかと考えた。また、探究活動で学校外に出る生徒が、現時点では全体の1割程度と少ない。しかし、『若手社会人のキャリア形成に関する実証調査』(注1)によると、キャリア観の充実は「日頃の業務など自分の定型的に行なっていること以外の行動の頻度」でより多く起こるとされている。このことから、これを学校に置き換えた場合、日常の授業や部活動は、生徒たちにとって「定型的な業務」にあたると思われる。ここを逸脱する機会、もしくはそれに近い機会を作れば、学校の授業内で「キャリア観の充実」が生徒たちの中で起こる可能性があると考えた。そのため、「国語総合」の教科書教材の中にある「労働」に関する教材を扱い、授業に採用している教材の筆者の論から自分の考えを導き出し、自分で調べたり考えたりしたくなるような仕組みを単元内に作ることで、それに近い経験を創出できるのではないかと仮定し、単元設計を考えた。

3 単元における教材の吟味と授業デザインについて

単元設計は、採用教科書である三省堂『新編 国語総合』に採用されている内田樹の『なぜ私たちは労働するのか』を基調教材として作成した。筆者は本文中で、労働の本質を「個人の努力が団体の利益に『かたちを変える』』とのうちに存する。個人の努力が個人に専一的に還元されることを求めず、逆にできるだけ多く

希望進学先	人数	就職先の第1希望	人数
国公立大学文系	35	公務員	10
国公立大学理系	37	民間企業	7
私立大学文系	10	合計	17
私立大学理系	3		
短大文系	5		
短大理系	1		
専門学校	74		
未定	52		
合計	217		

大学、短大の文系希望者	人数	大学、短大の理系希望者	人数	専門学校の希望系統	人数
法学・政治・地域政策	3	情報・メディア	1	工業	2
経済・経営・商学	3	工学	3	農業	0
社会・社会福祉	2	理学	9	看護	23
文・人文・教養	8	農・環境・畜産・バイオ	1	歯科衛生	3
外国語	8	獣医	0	医療系全般	19
国際	3	医学・歯学	3	教育・社会福祉	1
家政・生活科学	2	薬学	5	商業実務・外国語	0
教員養成	15	看護(看護4年制)	9	服飾・家政	4
芸術(美術・音楽・映像など)・体育	4	医療(放射線・検査技師・〇〇療法士など)	5	文化・教養	2
情報経営	1	その他	1	理美容・調理師・パティシエ・ベイト	12
その他	2	未定	11	未定	8
未定	12	合計	48	合計	74
合計	63				

図 1：令和3年度1年次生の進路希望調査(4月)

の他者に利益として分配されることを求めるような『特異なメンタリティ』によって労働は動機づけられている。」とし、「私たちが労働するのは自己実現のためでも、適正な評価を得るためでも、クリエイティブであるためでもない、生き延びるためである。」と結論づけている。

実際に、人間は社会性を有することで、一人ではなし得ないことを集団の中で協働し成し遂げていく。それを理解した上で、生徒たちがこの教材をきっかけにどのくらい自分自身のキャリア観について深く掘り下げていけるかについては、配列する非連続テキストの内容等を吟味する必要がある。

採用教科書には、各教材につき補充資料が複数用意されている。この教材の補充資料には姜尚中『悩む力』(2008年・集英社新書)と杉村芳美『「良い仕事」の思想』(1997年・中央公論社)の2つが所収されていたので、両方を印刷し、そのうち『悩む力』のみを授業内で読むことにした。姜尚中は本文の中で、「人間というのは、『自分が自分として生きるために働く』のです。『自分が社会の中で生きていていい』という実感を持つためには、やはり働くしかないのです。」と述べており、本文内でそれを「他者からのアテンション」と定義づけている文章であり、現代日本で起きている諸問題を想起させる内容を持つ。

また、教科書外の資料としては、『ほぼ日刊イトイ新聞』の中でデヴィッド・グレーバーの現代における「どうでもいい仕事」が多すぎるという問題提起をした『「ブルシットジョブ」について学ぼう』(注2)、ネットニュースサイトの withnews の記事から、昭和の労働観と現代の労働観の移り変わりについて整理した、『何のために働く

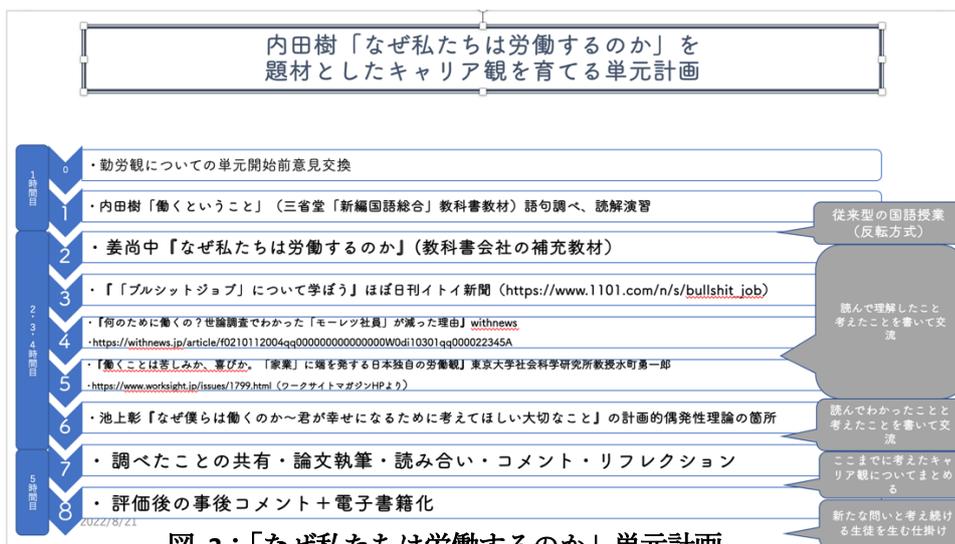


図 3: 「なぜ私たちは労働するのか」単元計画

くの?世論調査でわかった「モーレツ社員」が減った理由』(注3)、ワークサイトマガジンより、東京大学社会科学研究所水町勇一郎教授による『働くことは苦しみか、喜びか。「家業」に端を発する日本独自の労働観』(注4)を読み、その都度意見を交流することにした。さらに、池上彰編『なぜ僕らは働くのか〜君が幸せになるために考えてほしい大切なこと』(注5)の中からジョン・D・クランボルトの「キャリアの8割は偶然の事象によって決まるというキャリア形成理論」とする「計画的偶発性理論」について書かれた箇所を抜粋して教材とした。

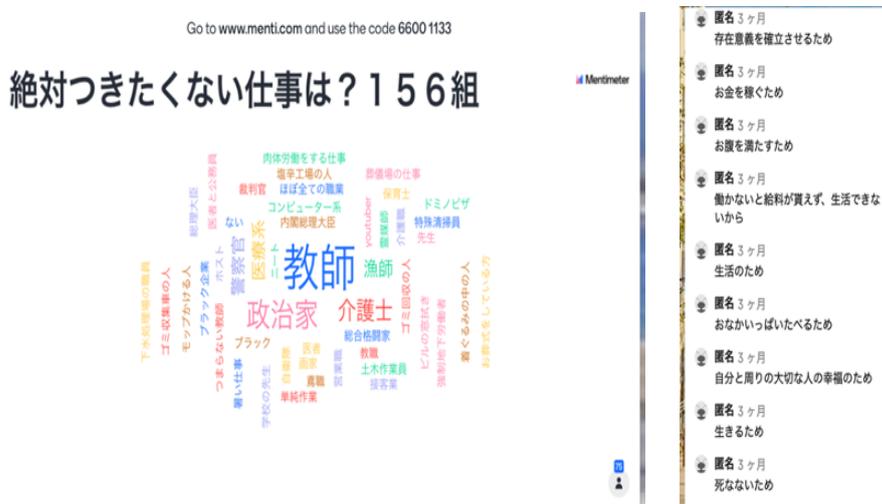


図 2: 単元開始前のキャリア観と生徒が考えた働く理由

その後、これらでカバーしきれないキャリア関連で生徒個人が興味関心を持った記事等を検索して共有する時間を取り、最後に基調教材で筆者が主張する「私たちが労働するのは自己実現のためでも、適正な評価を得るためでも、クリエイティブであるためでもない、生き延びるためである。」という主張について、生徒の現時点での考えを論文にまとめる授業を単元として構成した。(図2)

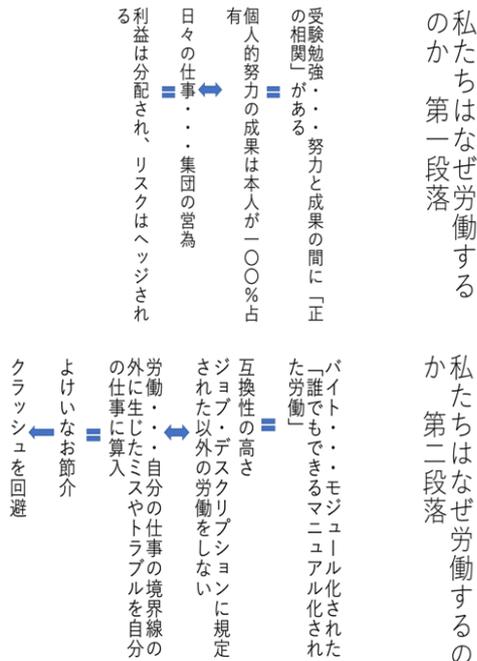


図4：基調教材通読前に配布した板書

4 授業の実際

実際の授業は、筆者の担当していない他のクラスと足並みを揃えるため、5単位時間程度で行った。基調教材である内田樹の「なぜ私たちは労働するのか」を読む前に、生徒たちが現時点で労働に対してどのような認識を持っているかを問い、生徒たちの意見を整理(図3)したあと、Padlet上に板書を配布(図4)して、筆者の主張を概観してから教材を読む。音読後、基調教材についての初発の感想を交換する。

初発の感想は、図5のようなものであった。生徒たちから、「語句が難しい」という訴えが上がってきたので、図6のように各クラス1枚のGoogleスプレッドシートを準備して語句調べを行った。

その後、読解問題の演習(図7)に取り組もうとした。読解問題の演習にPadletを用いた『学び合い』を用いることで、読解演習の問題が難しい生徒でも対応できるようにした。し



図5：基調教材初読後の意見交換

語句	意味
受益者	利益を受ける人
モチベーション	動機づけ
コンサルタント	具体的な製品・サービスを売るのではなく、コンサルティングそのものを商品として対価を受け取る職業
デイトレーダー	その日に購入した株を当日中に決済するため、日々利益を計上する方法で生活している人
追求	それを得ようとどこまでも追い詰めること。
労苦	からだや心が、疲れたり苦しい思いをしたりすること。骨折ったり心配したりすること。苦勞。
利得	事業、売買などをして利益を得ること。
排他的	他者を遠ざけようとするさま。
涵養	自然にしみこむように、養成すること
正の相関	2つの変数の一方が増加するとき他も増加する関係があること。
占有	そこを自分の支配下に入れ(て有す)ること。
余沢に浴する	余沢：先人が残してくれた恩恵。浴す：恩徳・光栄など、よいことを身に受ける
常態	普通の状態。
リスクヘッジ	起こりうる危険の状況の程度を予測して、その危険の状況に対応できる体制を取って備えること
選別	選び分けること
モジュール	基準寸法、基本単位
ジョブ・デスク	職務の内容を詳しく記述した文書のこと。
成果主義	人事管理において、業績によって被雇用者を評価し、その評価の内容によって報酬や人事を変更すること。
交換性	別のものに置きかえても使用可能であること
序列化	物事に順番をつけること。優劣を決めること。
グレーゾーン	どちらとも決めかねる、あいまいな領域。
お節介	出しゃばって世話を焼くこと。不必要に人の事にたちいること。
クラッシュ	激しくぶつかること。致命的な故障。
致命的	死・失脚・滅亡・失敗の原因となるほど重大であるさま。いのちとり。
前景化	「背景化」の反対語で、「強い印象を残す」「印象が強くなる」といった意味
貢献	何かのために力をつくして寄与すること。
困惑	困って、どうしてよいかわからないこと。
特異	普通と異なり特別なこと。
メンタリティ	心的状態。また、精神の作用。
クリエイティブ	独創的な、創造力のある、工夫して作る、編み出されるなどの意味を持つ言葉
回避	きらって避けること。
政変	政治権力が、合法的に、または非合法的に、突如、変動すること。内閣の突然の交替やクーデターなど。
リスク・ファクター	危険性を高める可能性がある要素のこと。
適正	適当で正当なこと。
代償	品物のねだん。比喩的に、ある事をするために避けられない犠牲・損害。
営為	いとなみ。仕事を行うこと。

図6：基調教材の語句調べ

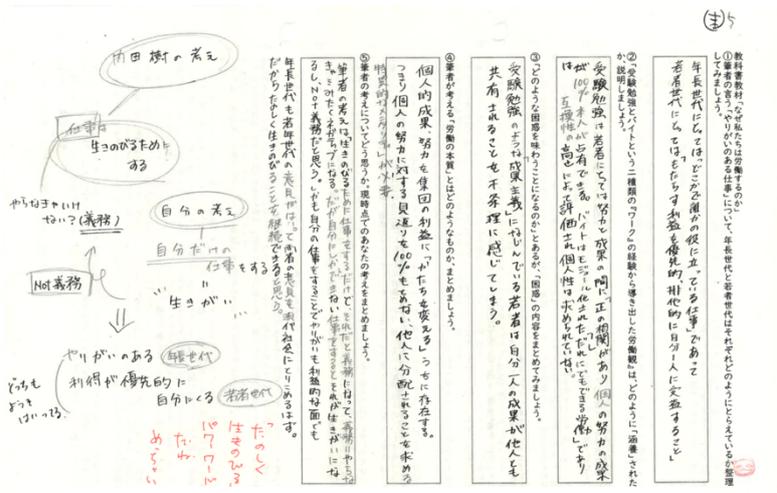


図7：基調教材の読解問題のプリント

50	「特異なメンタリティ」とは何か、なぜ特異なのか。	個人の努力が個人に専一的に還元されることを望むのではなく普通の考え方の人の、多くの他者に利益として分配されることを求める。
51	「それ」とは何を指すか。	労働の本質は、個人の努力が「できるだけ多くの他者に利益として分配されることを求める」という「特異なメンタリティ」によって労働は維持されていること。
52	「そのせい」とは何を指すか。	労働の本質が個人に専一的に還元されること。
3	「個人の努力の成果を誰ともシェアせず独り占めできる」とはほぼ同じ内容を表す表現を前の段落から抜き出せ。	個人の努力が個人に専一的に還元される。
4	「そういうこと」とは何を指すか。	「タリエティグ」で「自己決定・自己責任」の原則が貫徹して、個人の努力の成果を誰ともシェアできない仕事に就くこと。
4	「口にしないほうがいいと思う」のはなぜか。	人に抜きん出た個性が必要であるから。メンバーズグループの利益分配集団に属していない人は既に大きなハンディを背負われているから。リスプを全部一人で負わなければならないから。
8	「個性的な」と対照的な意味で使われている表現を同じ段落から抜き出せ。	みんなと同じような
8	「そうでない場合」とは何を指すか。	個性的な人物でない場合
9	「低い」と判断するのはなぜか。	理由も任務もみんな同じようでは、とても個性があるとは思えないから。
12	「そのような集団」とは何を指すか。	メンバーズグループの利益分配集団。
18	「勘定に入れることはできない」のはなぜか。	病気や天災や政変などは誰も予想のすることはできないから。
22	「もうわかりださうか」とあるが何についてか。	労働する目的。
25	「特異なメンタリティ」とは具体的に何か。	個人の努力ができるだけ多くの他者に利益として分配されることを求めるようなメンタリティ。
23	「それ」とは何を指すか。	特異なメンタリティ。
24	「この代価」とは何を指すか。	特異なメンタリティ。
27	「高いとは思えない」のはなぜか。	労働は「特異なメンタリティ」を要求するが、そのおかげで我々は生き延びることができるから。

図8：指導書の問題一覧



図9：自作の対策プリント

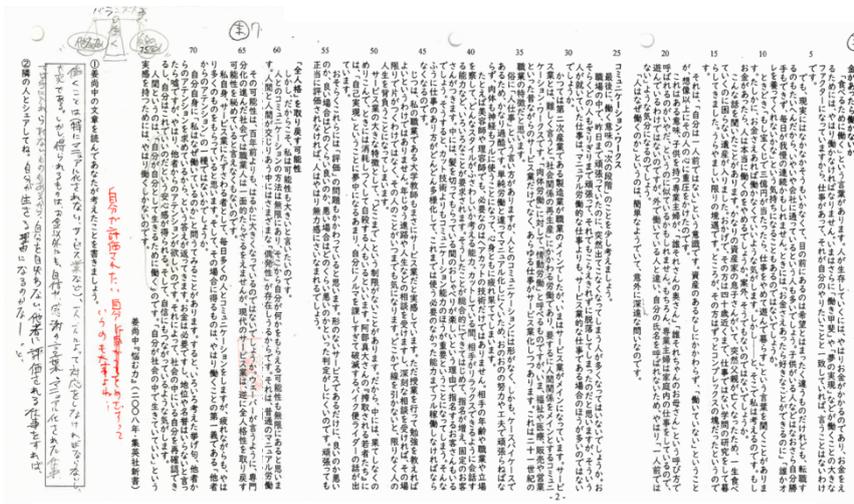


図10：姜尚中の教科書補充教材のプリント

しかし、生徒たちから「難しい」との意見が多数上がったため、急遽図8のようなプリントを用意した。これは、指導書の中にある「問い」と答えを全て一覧表にし、生徒個人が理解できそうになかったものだけを解いてみて、自己添削し、自分だけの試験対策プリントを作成するためのプリントである。図9のように、自分で取り組んだものを書く欄を設けた。使い方は特に指定しなかったため、質問と解答を傍線で示す生徒もいれば、実際に枠内に、自分で考えた答えを書く生徒もいた。この時間は1時間確保したので、生徒たちは問題を吟味して考える時間をそれぞれ確保した。わからないものは筆者又は周囲に確認することも許可したので、生徒たちは概ね1時間で問題演習に取り組むことができた。その後で、基調教材終了時点での意見のまとめをPadlet 上に書き込んだ。(図10)基調教材終了時点では、「私は筆者の意見には賛成だが、労働するのは「生き延びるため」だけだとは思わない。私が労働するのは「私という存在価値を見出すため」誰かの役に立ちたい。誰かに認めて欲しい。という思いのもとである。」といった意見や「仕事は生き延びるためかもしれないが、生き延びるために行う労働は義務だと思う。それだと義務=やらなきゃ…みたいなネガティブな感じになっちゃうけど、自分にしかできない仕事を行うことでそれが生きがいになるし、not義務になる。そして自分だけの仕事をやることでやりがい+利益を

優先的に自分が貰う、みたいな年長、若者世代両者の考えを現代社会に取り込めるのではと思った。だから楽しく生き延びることを継続できそう。」といった意見、「功利主義的な考え方だと思う。けど正直言って考え方は個人の自由であり、国家ごときや両親ごときなどによって考え方や価値観などを縛られるべきでは無い。だから好きにすればいいと思う。」「自分自身も働くようになってからある程度仕事をこなしていく内にお金ももっとあったらいいとかお金のことばかりを考えてしまうことがあると思いますが、確かにお金がいっぱいあったからといって自分の気持ち的には働いていないと社会的に焦りのようなものが出てしまうと思うので、お金があったからといって働くことだけに限らず生活は何も変わらないと思いました。」「筆者の考えていることに当てはまる人もしくはあると思うが、全員が当てはまる訳では無いと思う。受験勉強とバイトの経験以外から、自分の努力や行動が集団の利益に繋がる経験をする事がある。学校を例にして考えると、クラスの皆の分の資料集を配ったり(自分の利益のみを求めるのなら、自分の分だけ配れば良い)、時間割やお知らせを写真に撮ってグループLINEに送ったり(自分のみのものにすれば良い)など、自分以外のクラスメイトのために働く、と

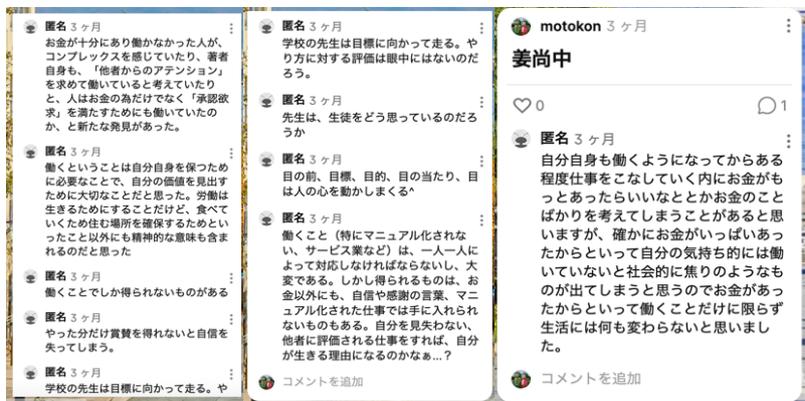


図 11：姜尚中の教科書補充教材の意見交換

いう経験をしている若者は「自分の利益のみを追求する」に当てはまらないのではないだろうか。」などといった意見があり、本文を問題演習の形で読み込む中で、内容をある程度理解し、その上で自分の意見を考えている様子が見てとれた。意見も単一的でなく多様で、基調教材の問題提起が生徒たちの考えを広げたり、深めたりさせるものとなっているようだった。

補充資料 3：働くことは苦しみか、喜びか。

「家業」に端を発する日本独自の労働観～東京大学 社会科学研究所 教授水町勇一郎
<https://www.worksight.jp/issues/1805.html>

日本のいま、これから の労働観	少子化で若い人不足 グローバル化でノルマ と競争を強いられ、仕 事は増える	自分の働く理由や価値 観を意識できないまま、 企業のために働かされ ていく	ワークライフバランス の欠如 メンタルヘルスの不調 過労死や過労自殺 働き方改革 技術的に変える必要 がある	デジタル化やAIの進 歩により、働かざる を得ない人が増える 効果的な転職するシ ステム ハイブリッド・タイ ム バリエーション どんな価値を生み出 せるか 相対的に重視 多様な人が能力を持 ち合わせていくとい う流れを共有する人 と個別の要素を柔軟 に組み合わせながら広 く連携 デジタル化に対応する 力や、必要とされる能 力や、技術が変わって くる	日本のかつての労働 観	イエの理念であり、ム ラ社会やイエ社会のし らみ 江戸時代には働くこと は「家業」として認識 され、生活手段を得る ための「生業」(なりわ い)として認識され た。社会に対して自らの役 割を果たすこと(「職分」 としての側面) 身分のつとめを一生懸 命果たすことが、働く こととして意味がある 家族のため、世の中の ために一生懸命働く
--------------------	--	--	--	--	----------------	--

補充資料 3：働くことは苦しみか、喜びか。

「家業」に端を発する日本独自の労働観～東京大学 社会科学研究所 教授水町勇一郎
<https://www.worksight.jp/issues/1805.html>

現在の労働観	仕事 が 楽 し き ・ 喜 び ・ や り が い ・ 自 分 の 為 め に 働 く こ と が 喜 び ・ 自 分 の 價 値 を 見 出 す こ と が 喜 び ・ 自 分 の 力 を 試 す こ と が 喜 び ・ 自 分 の 生 活 を 支 え る こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 癒 す こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 鍛 え る こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 洗 い う こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 癒 す こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 鍛 え る こ と が 喜 び ・ 自 分 の 心 を 洗 い う こ と が 喜 び	苦 し み ・ 辛 い ・ 疲 れ ・ 金 が 少 ない ・ 時 間 が 少 ない ・ 心 が 疲 れる ・ 心 が 折 れる ・ 心 が 壊 れる ・ 心 が 萎 縮 する ・ 心 が 狭 い ・ 心 が 閉 鎖 する ・ 心 が 閉 ざ る ・ 心 が 閉 じ ら れ る ・ 心 が 閉 じ ら れ る ・ 心 が 閉 じ ら れ る
--------	---	---

図 12：配布した「働くことは苦しみか、喜びか」の板書

ため住む場所を確保するためといったこと以外にも精神的な意味も含まれるのだ。」とか、あるいは、「学校の先生は目標に向かって走る。やり方に対する評価は眼中にはないのだろう。」など、結果ありきで評価される学校の評価システムに対する身近な疑問など、多様な意見が交流された。その後で、インターネット上の記事のリンクをPadletに貼って読むたびにPadlet上で意見交流をした。『働くことは苦しみか、喜びか。「家業」に端を発する日本独自の労働観』に関しては、板書を配布し、論点を整理した。(図12)

例えば、「ブルシットジョブ」に関する記事では、「確かに、よくよく考えるとこの仕事ってなんの意味があるんだろう、と考えさせられることは多そうだ。」とか、「昭和のモーレツ社員」に関する記事では、「純粋に時代ですごいなと思った。今の私から見て異常に映る「モーレツ社員」の仕事も、その時、その時代から見たら、きっとわたしたちの方が異常なのだろう。私にとっての労働は、きっと生きるための手段だ。決して会社のためだけのものではない。そんな働き方をしたらいつかプツリと限界がきて、壊れてしまいそうである。でもきっとそれでも続けたのは、それが正しいという洗脳的なものが原因じゃないかと思うし、社会のために、会社のことを一番に優先して働ける、それがカッコいいというステータス的なものがあつたためなのではないかな、と思ったりする。」とか、あるいは「日本」自の労働観」に関する記事では、「ヨーロッパは『労働＝罰』という考えが根付いているため、労働から逃れようとする人が多い。またヨーロッパは賃金が高く、短時間の労働でも十分生計を立てられる。だから過労死やストレスが少ない。しかし、日本は賃金が安いので長時間労働しなければ生計を立てられない人が多いために過労死やストレスをもつ人が多いのだ。このことから日本人の過労死などを減らし、ヨーロッパのような人生を充実させられる労働観を構築するためには、厚生労働省が行なっている働き方改革だけでなく、賃金を上げることを優先するべきではないだろうか。」といった、多様な意見交流がなされた。

池上彰監修のクランボルツの計画的偶発性理論に関する資料では、キャリアを充実したものにするための「好奇心」「持続性」「柔軟性」「楽観主義」「冒険心」の5観点が提示され、「キャリアプランにおける偶発性理論を学生のうちに気づいて、ポジティブな偶然を引き起こす方法を導き出せるようになれば、受験の推薦面接や、就活、小論文等に多く活用できそう。面接などの非日常的な場面では、緊張して不安でネガティブ過ぎる未来を勝手に予想し、上手くいかない。それで面接に落ちてしまえば最終的にキャリアダウンに繋がると思

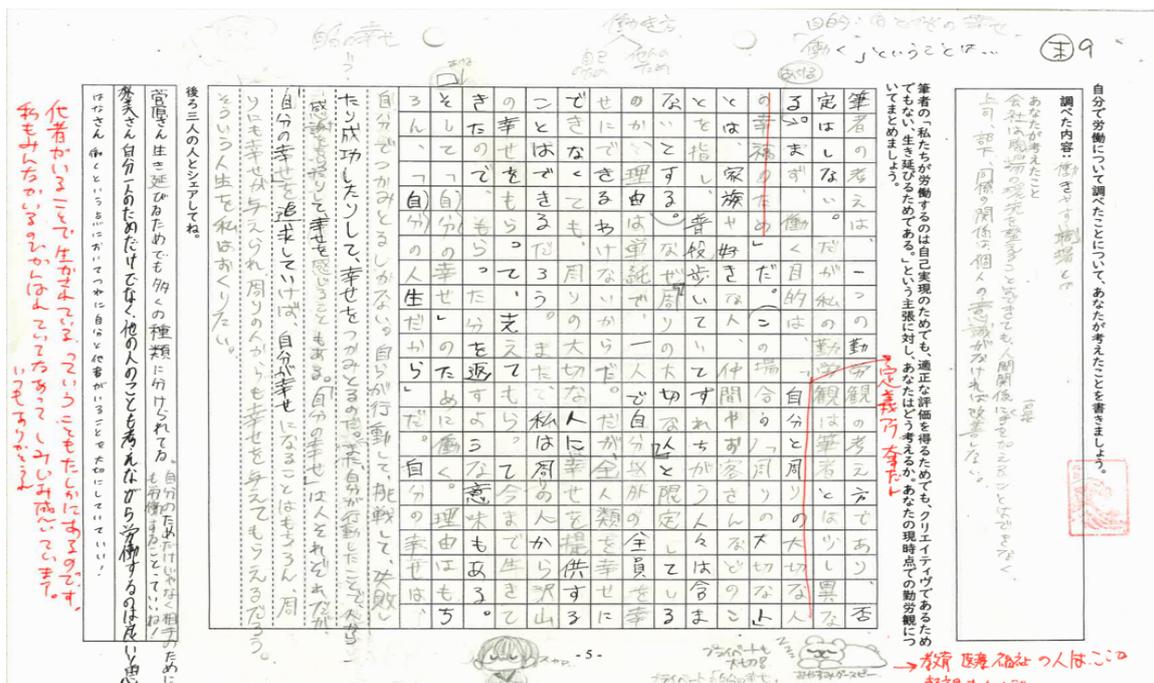


図 13：生徒の作成した論文

した。図表の説明と補足資料の「レンガ積み職人の寓話」(注5)を共有した。その後想定外の連続の筆者自身の人生について説明して、自分のキャリア観の変遷を簡単に述べてから「若手社会人のキャリア形成に関する実証調査」(注1)を抜粋して共有した。

6 まとめにかえて～キャリアプランのために高校の教員ができること

本実践では、「国語総合」の教科の一環として、教科書教材を基調教材として、キャリア観についての興味関心を広げたり深めたりしながら、自分の現時点でのキャリア観についてまとめた。

生徒たちは非常に熱心に取り組む中で、現代のキャリア理論や社会学などの幅広い学問領域に触れながら、そこを端緒として、自分たちのキャリアについて興味関心のある分野に関連づけて調べたり、周囲と随時対話をしたりすることで理解を深め、他者の調べた内容と自分の調べた内容を比較しながら、独自の考えを持ち、現時点での「キャリア観」をまとめるに至った。

このような単元内における学習活動自体が、小さくはあるが自分で調べたり考えたり、他者と交流しながら自分の考えをより深化させるメカニズムとして機能し、授業者が授業で提示したもの以上に考えを巡らし、自分たちの進路やキャリア観についてより深く、より広く考えようというキャリア観の充実につながったものと筆者は考える。

これは探究活動の初期の活動に似たものとなっており、興味関心を持ったテーマで自分たちの調べたいことを調べ、地域や社会へ活動の場を広げていく際のプロセスと、同じようなプロセスを経る。授業内でこのような経験をすることで、生徒たちに探究活動での調べ方や広げ方を伝えることができれば、その活動の先には、外部に向けて勇気を出して踏み出す次のステップが待っている。教室内から教室外に出て行きたくなるような学習活動を通じて、実際に学校の外に出て探究活動に取り組み、さまざまな人と関わることで自分のキャリア観を充実させることができれば、より自分らしい進路選択や、自分の人生を前向きに歩き、想定外を楽しんで生きていける、しなやかさにつながると、筆者は願わずにいられない。

(ながさわ もとこ／北海道公立高等学校)

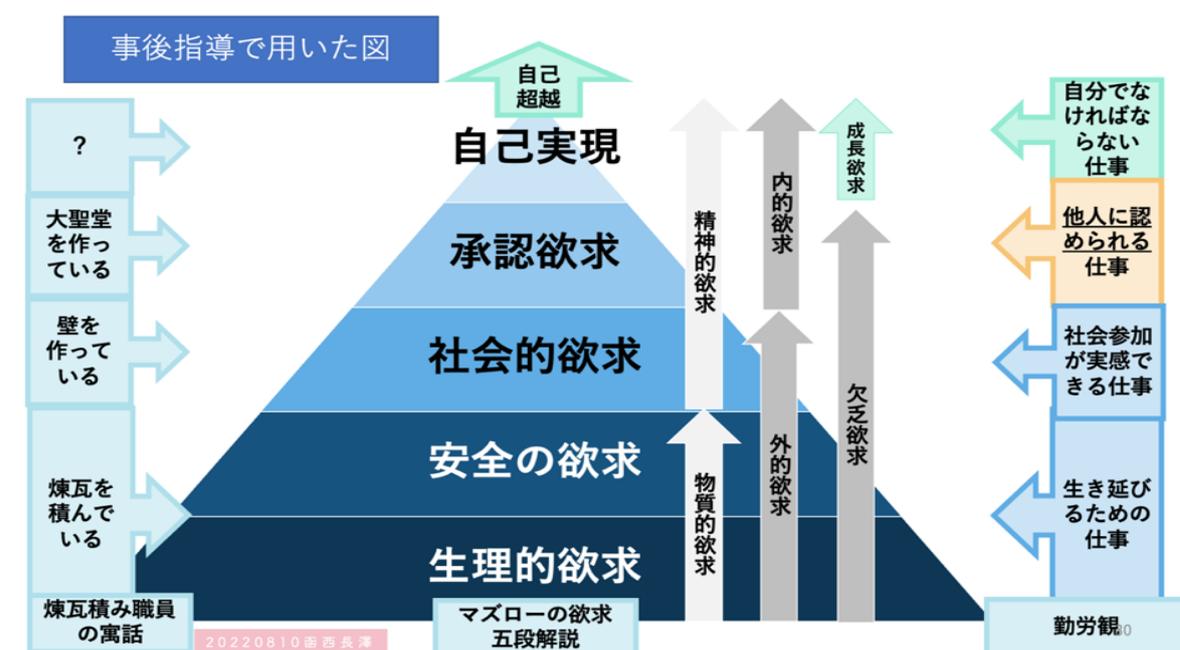


図 15： 単元終了後の事後指導で用いた図

注1…<https://www.works-i.com/research/works-report/item/youthcareer.pdf>

注2…https://www.1101.com/n/s/bullshit_job

注3…<https://withnews.jp/article/f0210112004qq0000000000000000W0di10301qq000022345A>

注4…<https://www.worksight.jp/issues/1799.html>

注5…<https://mainichi.jp/articles/20220102/k00/00m/040/045000c>

参考文献

『越境学習入門 組織を強くする「冒険人材」の育て方』石山恒貴、伊藤洋駆 著 日本能率協会マネジメントセンター 2022年

『若手社会人のキャリア形成に関する実証調査』結果報告書 古屋星斗、豊田義博、石山恒貴 2020年 リクルートワークス